

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [自己啓発](#) | [ロバート・オウエンの思想](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

ロバート・オウエンの思想⑧

初期の協同組合は失敗をしたが、1844年、ロッヂデールという町で再挑戦が始まった。運動としての方向性は同じであったが、初期協同組合運動の失敗を教訓として、事業の経営戦略に改善が試みられた。

そのひとつが“ツケ”取引を止めて、すべて現金取引にしたことである。

貧しい者を対象にした“ツケ”取引は回収不能の焦げ付きを多く発生させ、店舗閉鎖を招いたからだ。

このほかにも、事業のやり方や組合の運営について、先駆者たちはいくつかのルールを定め、それに基づいて組合を切り盛りしていった。

この「ロッヂデール公正先駆者組合」こそが、世界で最初に大成功を取めた協同組合であった。

協同組合運動成功の鍵となった理念や精神や運営ルールをまとめたものが「ロッヂデール原則」である。

ロッヂデール原則こそが、今日の協同組合を生み出したものだといっても、過言ではないだろう。

ロッヂデール原則

- (1) 民主主義の原則（一人一票制）
- (2) 開かれた組合員制度の原則（加入・脱退の自由）
- (3) 出資に対する利子制限の原則（最低の利子だけ払う）
- (4) 利用高に比例した割戻の原則（購買高に応じて配当する）
- (5) 市価販売の原則（値引きはしない）
- (6) 現金取引の原則（掛け売りはしない）
- (7) 公正な商売の原則（純良な品質、正確な計量）
- (8) 教育重視の原則（図書室・各種講座の設置）
- (9) 政治的・宗教的中立の原則（自主独立）

オウエンが熱く説いた教育も、「教育こそ協同組合の命である」として高く掲げられた。

非営利の協同組合なのだから売価をぎりぎりまで下げれば組合員に喜んでもらえるのではないかという疑問に対しても、「市価販売の原則」と「現金取引の原則」は矛盾しないことを説明した。

他の商店との軋轢を避けるという意味もあるが、値段を下げて売ればたしかに組合員は喜ぶが、それは組合員の生活に結びつかない。

当時の労働者には貯金をするという習慣はなく、唯一の楽しみはお酒を飲むことだった。

少しでもお金が余れば、あつという間にアルコールに変わる。

そこで先駆者組合は、あえて組合員に市価で現金販売をし、利潤となる分を「利用高に応じた配当」として、各人の口座に積み立てておくのである。

このことで労働者は無駄遣いをすることなく真剣に、その割戻金をいかに使うべきか、自分たちの生活をどう改善しようか、と考えはじめるのである。

しかし、オウエンが目指した協同のコミュニティづくりは、先駆者組合の目標とはなりえなかった。

皮肉にも先駆者組合のライバルとなる協同組合の登場により、割戻競争が行われるようになり、目標が消費者の利益を守るという方向へ向かったのである。

そして、農業者は農業者の、魚業者は魚業者の、中小商工業者は中小商工業者の、といった具合にそれぞれ独自の協同組合をつくる方向へ発展していった。

つまりオウエンの思想や運動は、ロッヂデールの大成功を経て、協同組合運動の規模を拡大させただけでなく、質的にも大きく変わったのである。

こうした転換をどう考えるかは人それぞれだが、その根本に流れるオウエン思想は長く引き継がなければならない。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🗺️ サイトマップ 📄 このサイトについて 🛡️ 個人情報保護の取組みについて

🏠 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.